

2021年度 IFA 審判員強化研修会 インストラクター研修会

(公財)茨城県サッカー協会 審判委員会

鹿嶋サッカーフェスティバル2021(ユースの部)にご協力いただき大会2日目から3日目に審判員強化及びインストラクターの研修会を開催しました。

新型コロナウイルスの影響による参加チーム数の変更で直前まで調整を強いられた中、開催してくださいました大会関係者の方々へ厚く御礼申し上げます。

お陰様でコロナ禍で難しくなっている集合研修を実施することができ、審判委員会として貴重な機会となりました。



【大会期間】2021年8月10日(火)～12日(木) <通常割当>8/10 <研修会>8/11～12

【参加者数】8/11 審判員35名 インストラクター19名 13試合(うち3試合B戦)

8/12 審判員26名 インストラクター11名 5試合

【研修内容】**審判員**

- ・試合の実践
- ・アセッサーによる試合後の振り返り、後日アセスメントレポートの受領

インストラクター

- ・アセッサーとして試合後の審判員への振り返り進行の実践、アセスメントレポート作成
- ・審判員への振り返り内容について上級インストラクターからアドバイス

審判員

試合の振り返り、アセスメントレポート



インストラクター
S13

上級インストラクター
S11、S12

振り返り内容についてのアドバイス

※S11～S13…インストラクター1級～3級

全試合をビデオ撮影 → 後日各自ダウンロードして自己分析

《座学》鹿嶋市勤労文化会館

8/11(水) ○挨拶【恩氏委員長】【宮島 JFA トップレフェリーグループ マネージャー】

恩氏委員長からは「コロナ禍の厳しい環境のなかでの審判活動は苦慮されていることが多くあると思いますが、貴重な集合研修の場を有効活用してほしい」という旨の話があり、宮島さんからは「みる（見る、観る、視る etc.）」ということについてレフェリングにも役立つ示唆に富んだ話も交えて挨拶いただきました。



○各会場振り返り&発表

- 1) 各会場に分かれて各試合に起こった事象について各自ピックアップ
- 2) 会場としてのトピックス的事象を決定し更に意見を出し合って掘り下げる
- 3) 会場ごとに話し合った内容を発表



担当した審判員、インストラクターが一緒になって各会場で起こった事象についてディスカッションを行いました。その後の会場ごとの発表では、判定や主審・副審との協力などについて事象をもとに全体共有されました。

まん延防止等重点措置によって会場利用の終了時刻が予定より前倒しになって例年より短い時間となりましたが、限られた時間の中でも意見を出し合ったり撮影した試合の映像を有効活用したりするなど参加者全員で協力しながら有意義な全体会にすることができたと感じています。



8/12(木) ○各会場振り返り&発表

手順、内容については8/11の座学と同様です。

前日に比べて会場利用時間について余裕があり、また各会場2試合だったため(8/11各会場5試合)事象についてより深く掘り下げたディスカッションを各会場とも出来ていた様子でした。

○決勝戦の公開振り返り

【R 外岡将司 A1 板子和敬 A2 相田裕介 4th 内田賢一郎】

【アセッサー 鈴木朗(指導者部長)】

決勝戦担当アセッサーと審判員との公開振り返りは昨年度の本研修会で初の試みとして実施しました。

例年は決勝戦のみ午後の試合となり、担当以外の審判員、インストラクターは観戦研修とすることができましたが、今年は新型コロナウイルスの影響による参加チーム変更の影響で決勝戦と同時進行で他の試合も行われていたために観戦研修はできませんでした。



決勝戦はPK方式にまでもつれ込む白熱した展開となり、担当した審判員も全員で協力して任務を果たし最後まで締まったゲームとなりました。

今回は観戦研修とすることができなかつたために最後の質疑応答は少なめでしたが、決勝戦を担当した審判員がどのような心持ちで臨んだのか、何が起きて試合中どの様に考えていたのかを知ることができたと思います。

また、インストラクターは試合中どのような点に着目し振り返りで審判員へ問いかけるのか今後の参考になったのではないのでしょうか。

<全体を振り返って>

昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響を受けた研修会となり、感染症対策を講じながらの開催となりました。審判員、インストラクター各自においても感染症対策への意識もあり、参加者全員の協力により無事に研修会を終えることができました。

直前まで参加チーム数が定まらず割当発表が各日試合前日だったり、試合数減によって割当が充分に行き渡らなかつたりしましたが、参加者のご理解とご協力のもとビデオ係も含めて大きなトラブルもなく試合へ臨んでいただきました。

コロナ禍で日常生活でも人と直接接する機会が以前に比べて格段に減った昨今ですが、リモートだけではなく審判員・インストラクター仲間同士が集まり、お互いに目の前の実践の場について意見を出し合いながら研鑽を積む場の大切さ、有難さを改めて感じた研修会となりました。

コロナ禍が収まるまで暫くまだ時間がかかりそうですが、この環境の中で今できることを常に模索しながら審判員、インストラクター育成に審判委員会として引き続き力を注いでいきたいと思っております。

(文責:指導部長 西尾英朗)